

勝つために必要なことは？ 第39回体育会リーダーズキャンプ



講演する日テレの山下末則さん

平成15年度専修大学体育会リーダーズキャンプ(主催=体育会本部)が3月3日、4日、「箱根湯本ホテル」で行われた。今回で39回目となるこのキャンプは、体育会各学部の主将・主務が集まり、勝つためにはどうすればいいのかを考え、体育会の活性化を図るために行われる。

今年は「勝つために必要なことは？」をテーマに、専大バスケットボール部(女子)コーチの奥山朋仁さん、日本テレビアナウンサーの山下末則さん、スポーツ栄養アドバイザーの石川三知さんの3人が講演。奥山さんはトレーニング方法などフィジカル面について話し、山

下さんは自身の経験からリーダーとして心掛けるべきことなどメンタル面を語った。最後に石川さんは運動や体作りに有効な食べ物など栄養面についてアドバイスを送った。

講演会後に行われたグループディスカッションでは、これからの部の方針などを話し合い、それぞれ交流を深めていた。ここで学んだことを生かし、今年も専大体育会一丸となって頑張ってもらいたい。

(幸脇 健太・文2)

[3月27日/ニュース専修15面]

部活拝見 体育会 相撲部



試合直前、檄を飛ばす大野孝弘監督

相撲道場を訪れた。道場内は、常に声を張り上げ、稽古に励む部員たちの熱気で溢れていた。

相撲部は長い伝統と実績を持つ。大関・武双山(尾曾武人)をはじめ幕下に柳(柳謙治・平成8商)、大金(大金優・平9商)、今年の初場所の成績で幕下に昇格の片山(片山伸次・平14商)らを輩出。今後が期待されるOB力士が続いている。

現在部員は3年次4人、2年次5人、1年次3人の合計12人。そこに4月から新入部員5人が加わる予定だ。稽古は月曜を除く連日で、1日3時間、生田校舎の相撲道場で汗を流している。



稽古では実際に相撲を取る「申し合い」を約1時間半行う。「申し合い」は本番さながらの緊張感が漂い、体と体がぶつかり合う、にぶい音と激しい息遣いが聞こえる。一戦一戦真剣に取り組む部員たちのまなざしは、まさに格闘家の目だ。ほかに土俵の端から端へ相手を押し出す「ぶつかり稽古」などが行われる。最後の整理体操で終えた後、全員一斉に神棚に一礼することも忘れない。

部員全員が道場内の寮生活。掃除や「ちゃんこ」作りは1年次生の仕事。「慣れないことですが、頑張ってます」と話す。「個性的な人が多いけれど一体感がある。楽しいですよ」と永野武治主将(商3・鹿児島実業高)。

そんな彼らの今年の目標は、東日本学生選手権のAクラス復帰、そしてインカレ優勝だ。「新入生5人を加え、より強いチームを作っていきたい。絶対に良い結果を残す」と永野主将がきっぱり語る抱負にも熱がこもる。今後の相撲部の活躍に期待したい。

(大野愛子・経済1)
[3月27日/ニュース専修15面]